

あけびだより

No. 248

2025年6月1日発行

URL <http://www.akebi.or.jp/>

令和7年6月



絵画教室

橋本幸子氏

～進化するあけび、振り返るあけび～

平素より当法人の活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。
この度、理事長職に就く事になりました。15年前にあけびと出会い、訪問看護の管理者として10年。「人として寄り添った支援ができるあけび」が大好きでここを存続させて行きたいと思い、この職に就く事を決断しました。

「もっと集いたい」という患者の声から始まった「あけび」は、一昨年20周年を迎える事が出来ました。職員はじめ、利用者様、ボランティアの方々、そして賛助会員様の協力があったのこのとだと思っています。

今年は、リハビリデイサービス開所、あけびの里別館開所と慌ただしい状況であり変化の多い年ですが、これも「あけび」が進化する為のステップであります。しかし、また、今までの20年やってきた事が基盤である事を忘れてはいけません。なにより、創業者である林理事長、木村副理事長の「利用者を中心に置く」という想いは引き継いでいきます。

現在、通所介護3カ所、住宅型有料老人ホーム2棟、訪問介護、訪問看護と多くの事業所を運営するNPO法人となりました。従業員も増え、意思伝達が難しくなっていますが、組織体制を整備し、組織力を発揮出来るようにしていきます。利用者様にとって、また、職員にとっても「あけびでよかった」と思って貰えるような場所にしたいと思います。

20年の「あけび」の重みを受け止めるには未熟ではございますが、さらなる進化と承継が出来る様に日々精進してまいります。今までと変わらぬご理解ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします

(鈴木 美代子)

※林理事長、木村副理事長は相談役として今後もあけびの運営に関わって頂きます。
今まで数多くの神経難病の方々に救って来られたお二人です。
これからも、神経難病患者さんの相談を受けて下さる心意気です。

認定・特定非営利活動法人あけび

認定・NPO法人あけび 事務所
TEL 079-262-6702 FAX 079-262-6703
グループリビングあけびの里

TEL 079-262-6707 FAX 079-262-6703
訪問介護ステーションあけび
TEL 079-262-6702 FAX 079-262-6703
Mail: akebi-herupa@akebi.or.jp
〒672-8064 姫路市飾磨区細江473-10

通所介護デイサービスあけびの実
〒670-0804 姫路市保城363番地の3
TEL079-280-6931 FAX079-280-6932
Mail: akebi-no-mi@akebi.or.jp

通所介護デイサービスあけびの輪
〒670-0952 姫路市南条1丁目101-1
TEL079-284-0055 FAX079-284-0056
Mail: akebi-no-wa@akebi.or.jp

訪問看護ステーションあけび
〒672-8064 姫路市飾磨区細江473-15
TEL 079-262-6708 FAX 079-240-6765
Mail: houkan@akebi.or.jp

リハビリデイサービスあけび
〒670-0047 姫路市花影町4丁目9
クラウンビラ花影1F
TEL079-290-5184 FAX079-290-5188
Mail: akebi-reh-day@akebi.or.jp

あけびの実

誕生会



今月は「ローザ・カンタービレ」の7名の方に迫力あるコーラスを披露して頂きました。一緒に手遊びをしたり懐メロを歌ったりと、楽しい時間を過ごされました。素敵な歌声に涙ぐまれる方もおられました。



♪子キブリ団子作り

恒例の団子作りは約10名で500個程作りました。何故か不思議、どんどん大きくなっていくのです。「小さく小さく！」と言いながらコロコロ丸めていきました。これで害虫対策もバッチリです。



♪壁面制作

～バラのアーチ～

作業療法を兼ねて今月は折り紙で挑戦しました。バラの花は結構難しいのですが、男性陣も苦戦しながら大健闘されました。立派なアーチが完成しお部屋も華やかになりました

♪兜制作

端午の節句当日、柏餅を食べた後「昔よく作った兜、おぼえてるかなあ」の声が上がったので早速、新聞紙で作ってみました。昔話に盛り上がりながら見事完成！最後は記念写真でポーズ



♪レク各種

毎日、朝の会で話し合っ決めていきます。身体を使うレクや頭脳を使うレク、カードゲームなど様々なレクに取り組みられています



♪豆剥き

朝の会の前に全員にお手伝いして頂きました。もちろんお昼には美味しい豆ご飯の御馳走でお腹も一杯になりましたよ。



春の大運動会2025.5.5(月)

リハデイ

風さわやかに緑もえる5月。リハビリデイサービスあけびでは、『第1回・春の大運動会』が行われました。爆笑あり、涙あり、本当に楽しい運動会でした



お出かけ



★名古屋山の躑躅（つつじ）を見にお出かけしました。色とりどりの華やかな躑躅の間をドライブしました。

誕生日会



★5月の誕生日会は、虹色の風さんの歌謡ショーでした。懐かしい昭和歌謡を唄って踊って、とても楽しい時間でした。昔を思い出して涙される方もありました。スタッフ渾身の歌唱も好評でした！

あけびの輪



★爽やかな風が気持ちよい季節になりました。近所の公園で散歩を楽しみました。



★今月のちぎり絵は、猫と紫陽花です。ちぎり絵で猫の描写が上手く出来るか心配しましたが挑戦していただきました。生き生きとした可愛い猫に仕上がりました。今月の俳句は、北風敏明さまです。



★5月8日の朝のミーティングで、「今日は紙飛行機の日」という話題があがりました。それならば、みんなで紙飛行機を折って飛距離を競いましょうとなりました。優勝はAさん！皆さん少年少女の表情に戻って楽しまれていました。

★毎日、頭や体を使うレクリエーションいろいろしています。楽しくて、つつい黄色い歓声があがります。



★壁画 雨に濡れる紫陽花を和紙で表現しました。

あけび



PTさんの指導の下真剣に取り組んでいます。



おやつに、ホットケーキを作ってみました。作りながらの楽しい時間にワクワク！！



ボランティアの本間さんから沢山「えんどう豆」をいただきました。皆で豆の筋取りをしました。もちろん昼食の時においしく頂きました。本間さんいつも有難う御座います。



楽しい1日の締めくくりは皆さん大好きなカラオケです。

訪問看護ステーションあけび

【痛みや姿勢の悪さは〇〇が原因か】

下半身を鍛える運動といえばスクワット。とても良い運動ですが、決して万能というわけではありません。スクワットでは太ももの前側、内側、お尻の筋肉を鍛えることができますが、太ももの後ろ側の筋肉（ハムストリングス）については効果が薄いので、何か別の運動を取り入れる必要があります。ハムストリングスは痩せていたり、硬く縮んでいたりすると本来の力が発揮できず慢性痛や姿勢の悪化をまねきます。皆さんは自分のハムストリングスの状態を知っているでしょうか。リハビリスタッフに訪ねてみましょう。身近に相談できる人がいない場合はお気軽にあけびにご相談ください。(K/K)



お部屋によっては小学校の校庭が見えます。子供が大好きな〇さんは、しつかり目を開いて校庭を眺められてました。こんな風景に私たちも心癒されます。

スタッフを募集中

「あけびの寄り添える介護」で一緒にやりがいを感じませんか？特に夜勤スタッフが不足しています。介護・看護職がお知り合いに居られましたらお声かけをお願いします。



お知らせ



「卓球クラブ」6月練習日

6月3日(火) 17日(火)

場所：ルネス花北体育館
持物：上靴・ラケット

連絡先(280-6931)

嘱下指導・相談会

日時：6月14日【土】

場所：あけびの輪

昼食を摂りながら診ていただきます。(要申込)

TEL. 079-284-0055

パーキンソン病友の会 姫路ブロック

*6月患者・家族交流会

【日時】6月15日(日)13:00~15:30

【場所】あけびの実

【会費】1家族 500円

【連絡先】TEL280-6935 FAX280-6932



内田勝子氏

訪問介護ステーションあけび

グループリビングあけびの里

【あけびの里別館が開所しました】

あけびの里別館が開所し、5月17日より入居が開始されました。現在、4名の方が新たな生活を始められています。残り1名も6月初旬に入居予定で、これで満床になりました。色々と考えて建てたものの、住んでみたら「あそこが・・・」「ここが・・・」と色々ご不便をかける事もありますが住めば都(笑)。ソフト面(人)でカバーして、安心・安全に暮らして頂けるように支援していききたいと思います。



【第21回通常総会が終わりました】

年度末から2025年度にかけて、あわただしく里の別館とリハビリデイがオープンしました。

今年のテーマは「転換期を迎えた神経難病患者をどう支えるか」です。あけびが始まった20年前と比べると病気の情報はもとより、介護保険の仕組みや情報もあふれかえるほどになっています。それと合わせて、働く人たちの考えも大きく変わってきました。昨年の目標は「1人1人に寄り添って、あけびを持続可能なものに」でした。この意味でもこの転換期を乗り越え、組織としてのあけびを強固なものにしなければなりません。2025年は、低迷を続けてきた通所介護2事業所が共に息を吹き返したように利用者が増えています。相談や助言・啓発事業を展開しながら、多職種との連携を深め、神経難病の方が、地域で最期まで、尊厳を持って生活が出来るように支援していきます。